

学校法人森ノ宮医療学園 第2期（2019年～2023年）中期計画【概要版】

I.基本目標等

【環境分析】

第2期中計期間中（2019年～2023年）には何が起こるか？

■世の中（特に、医療系教育業界）では？

① 2021年ごろから18歳人口が減少。2027年には2016年の119万人から15万人減の104万人に（＝本学園規模の学校70～80校が消える）。高齢化も一層進む（26%⇒30%）

② 専門職大学・専門職学科の開設等、競合関係が一層激化する。

③ 大学入試制度が大きく変わる（高大接続）

④ 国の文教政策が変わる～教育成果を補助金の配分基準にする、大学の統廃合を進める、東京集中を制約する、等々

⑤ 医療業界におけるAIやIoT利用、外国人人材の参入が飛躍的に拡大する。

■本学園では？

① 大学：「医療系総合大学」として目指しているラインアップが揃う 作業・検査（2019）、臨床工学（2021）、放射線（2022）等

②新しい事業部門が完成する：LC・外国人介護士（2023）

③専門学校既存学科の業界縮小がさらに進む

④年間2億円～3億円円の借り入れ返済が続く（2027年頃まで）

⑤量の拡大から質の向上・充実への転換期を迎える

【基本目標（2023年度末までに実現したい姿）】

「人口減少社会に勝ち残るブランド力

（第1期中計目標“関西圏トップクラス”⇒） “関西圏トップ”の実現」

【目標指標】

①各学科国家試験合格率、対入学者年限卒業率、就職率いずれも関西圏トップ

②各校収容定員充足率100%以上

③借入返済後キャッシュフロー黒字化

④働きがい度80%以上

【テーマ】 Change & Challenge第Ⅱ章

“Be Precious ！ Be Prestigious ！”

【目標達成のために解決しなければならない課題】

① 新規事業の完成・成功

② 既存事業の再生・安定

③ 上流（入口）・下流（出口）ネットワークの強化

④ “森ノ宮ブランド”の確立・認知獲得

⑤ 「個の力」と「組織の力」の有機的強化

➤ Be Precious! Be Prestigious! のための12の中核プロジェクト

➤ 各部署中期計画

II.中核プロジェクト

プロジェクト名		概要
1	森ノ宮式チーム医療教育”MAC”確立プロジェクト	本学のコア教育プログラムであるチーム医療教育”MAC”（Morinomiya Advanced Carricurm）について、低学年からの積み上げ教育・体験的教育を新たに導入することで完成度を高め、学生が主体的に学ぶことができ、高いオリジナリティーを有し対外的にも魅力的なカリキュラムを実現させる。
2	「研究の森」づくりプロジェクト	”Intellectual Contribution to Area, Medical front and Medicine ”をコンセプトに、「アカデミア（知を蓄積し伝え育む場・研究と教育）としての充実」にも焦点をあて、積極的な「知の蓄積」・「知による社会貢献」を目指す。また、学科連携による全学的研究プロジェクトを構築し、社会発信を活発に行い、研究機関としてのプレゼンスを高める。
3	財務基盤安定化プロジェクト	新規設置学科や収益事業の完成・安定化を図るとともに、第2期中期計画後の収益安定化時期を見越した事業・経費管理体制の検討・構築を進める。また、基本金制度等の活用により、資産の運用と保全のメリハリをつけた資産管理体制を整備する。
4	「森ノ宮オリジナルづくり」プロジェクト	「これだけは他学に負けない、他学にはない」ものを学園・部門・部署および教職員それぞれのレベルで確立する（「一人一部署1オリジナル運動」）。
5	「Smart’M’」プロジェクト	①MS2（Morinomiya Smart-Management System）プロジェクト： ・学園の仕組みや制度について、WGや定期的なアンケート等で見直し提案を募集し、形式的なもの、意味がよく分からないものを「聖域なく」改善していくとともに、業務や作業の自動化・省力化を徹底して進める。 ②MSCO（Morinomiya Smart Campus & Office）プロジェクト： コミュニケーションの活性化、学習・業務効率アップ、さらにはSDGs（Sustainable Development Goals）への貢献や対外イメージアップの視点も踏まえて、キャンパスやオフィス環境の整備を進める。女性や若手も参画するチームを組成し、ニーズ把握やアイデア出しを行いながら「目に見える変化」を継続的に示していく。
6	未来投資プロジェクト	介護ロボットや医療用AI等を開発する企業への投資、介護サービス等新たな事業展開を検討・推進する。
7	「時代に対応した柔軟な学部・学科展開」プロジェクト	「チーム医療」をさらに充実するため大学に診療放射線学科、大学院看護学専攻科を設置する他、超少子高齢化の進展により深刻化するわが国の介護人材不足に対応・貢献するため、ランゲージスクールの接続教育機関として介護士養成学科を設置する。また、修士課程における医療資格取得や新たな取得資格（園芸療法士等）コースの設置等、次の10年を見据えた学部・学科展開を検討・推進する。
8	「グローバル’M’」プロジェクト	①「グローバルM」プロジェクト（国際化への対応）： 海外留学プログラムの多様化を図ると同時に危機管理機能の充実を図る。 また、海外留学を促進するための経済的支援やランゲージスクールの外国人留学生との交流を通じて、国や文化が異なる人々が学び合い、知を創造するグローバルコモンズの実現を目指す。 ②「ローカルM」プロジェクト（地域・社会の課題解決と地域の活性化への貢献）： 地域の様々なステークホルダーとともに協働しながら、地域を教育の場としたフィールドワークを含む科目を開講するなど、地域課題の解決につながる教育を実施する。
9	卒業生支援強化プロジェクト	卒業後も「森ノ宮は違う！」と言われるように、卒業生のキャリアアップやライフステージを支援していくためのネットワーク構築やサービス、サポート提供を強化する。
10	入試改革プロジェクト	大学では大学入試改革への対応・学科特性にマッチした能力を有する優れた学生を確保するための精度の高い入試体制の構築、専門学校では特待生優遇制度等を推進する。
11	学生支援強化プロジェクト	トリプルサポートの充実、民間就職先の開拓等、「森ノ宮に入学して良かった」と思われるサポートを充実・展開する。また新たにキャリアセンターを設置し大学全体として就職支援を強化するシステムを構築する。
12	FSD強化プロジェクト	アクティブラーニングやEdTechへの対応、働き方改革を踏まえたSD等に積極的に取り組む。

Ⅲ.部署別目標

【基本目標】“関西圏トップ”の実現	
① 各学科国家試験合格率、対入学者年限卒業率、就職率 いずれも関西トップ	
② 各校収容定員充足率 100% ③借入返済後キャッシュフロー黒字化 ④働きがい度 80%以上	

【大学】

大学院	1	受験者数が定員数以上
	2	看護学専攻博士後期課程を設置するか否か決断し、設置するなら設置申請を行う
	3	論文博士のシステムを導入するか否か決断し、導入するならその仕組みを整備する
	4	カリキュラム改編と実行
	5	修士1学位授与につき1論文、博士1学位授与につき3論文
鍼灸学 科	1	国家試験合格率100%
	2	入学者4年後卒業率95%以上
	3	学生募集 第一志望志願者100名以上
	4	各学年末における全単位修得者90%以上
	5	進路決定率100%、医療機関就職者10名以上、教員採用試験合格者年2名以上
	6	専門資格取得率100%
	7	査読付き学術論文 各教員年1報以上
	8	附属施設所の教育・研究施設としての独立（臨床研究年5件以上の実施、他学科との共同研究1件以上）
	9	学生満足度80%以上
理学療 法学科	1	国家試験合格率100%
	2	入学者4年卒業率95%以上
	3	就職第一希望先就職率＝95%
	4	在校生推奨度＝80%以上
	5	入学偏差値＝競合大学以上
	6	臨床マインド（社会人力～臨床力）を高める教育（実習不合格者0%）
	7	質が保証された実習地の確保
	8	学科独自色の追求
	9	学外共同研究テーマの構築（科研費申請率70%、採択数4件、筆頭論文数2本以上／5年／人）
	10	卒後教育システムのブラッシュアップ
作業療 法学科	1	国家試験合格率100%
	2	入学者4年後卒業率95%以上
	3	学科第一希望受験生90%以上
	4	学科ブランド力の強化
	5	希望就職率100%
臨床検 査学科	1	国家試験合格率100%
	2	入学者4年後卒業率95%以上
	3	就職率100%（医療機関80%、医療機関以外20%）
	4	臨床検査学科入試志願者数の増加
	5	資格取得率は卒業生の1割
	6	学科連携研究を進める。
臨床工 学科	1	国家試験合格率100%
	2	入学者4年後卒業率95%以上
	3	ティーチングメソッドの開発
	4	学生確保の取組
	5	教員の研究活動と研修の充実（①臨床工学関連の課題創出100% ②科研費申請率100% ③研究体制と研究環境の確立 ④臨床実習病院との連携強化 ⑤関連企業との連携強化）
看護学 科	1	教育内容の充実、授業・実習に対する学生の満足度80%以上、教員の教育力の向上
	2	国家試験合格率100%
	3	入学者4年後卒業率95%以上
	4	7対1病床or 300床以上の病院の就職率80%以上、実習先施設への就職率60%以上
	5	教員の充実した活動、教員の研究力の向上、教員の活動状況の報告会1回/年
	6	助産学専攻科への進学率の向上 5名以上/年
	7	大学院看護学専攻の入学者の定員確保
	8	保健師課程10名、教職課程（養護教諭一種免許）15名の学生確保
	9	卒業生との情報交換・交流1回/年以上、卒業生のキャリアアップ支援
	10	看護学部改組の検討
助産学 研究科	1	国家試験合格率100%
	2	森ノ宮医療大学看護学科からの内部進学者が5名以上確保できる。
	3	希望施設への就職率100%で早期に決定する。
	4	受験率が上がる（3倍以上）
	5	長期(3カ月)実習施設の開拓・確保
共通教 育セン ター	1	国家試験合格率100%
	2	入学者4年後卒業率95%以上
	3	教養・基礎医学授業の学生満足度の向上
鍼灸情 報セン ター	1	SNSフォローアップ
	2	鍼灸のエビデンスまたはミュージアム所蔵品に関するWeb・SNSによる情報発信数を月2件以上
	3	鍼灸のエビデンスまたは本学園鍼灸史料関連の学術業績またはマスメディア露出を年3件以上
	4	大学イベントまたは学園関係出版物での露出5件以上
学習支 援セン ター	1	・各学科3年生までの全学年でのステップアップ講座の開講 ・参加者数の増加
	2	入学者4年後卒業率95%以上
	3	新規学習成果評価手法の導入
	4	国家試験合格率100%
	5	学内イベントの開催
	6	ピアサポート体制の確立
	7	ICT教育サポート体制の確立、ラーニングスポット使用件数の増加
教職支 援セン ター	1	教職免許取得率100%
	2	教員採用試験合格者の輩出（毎年1名以上）※卒業生含む
	3	免許更新講習事業の開始、新たな教職免許状の申請
国際交 流セン ター	1	地域連携の活発化（外部機関からの依頼を滞りなく対応する。）
	2	MEEP（臨床現場にて英語で対応できる学生の輩出を毎年行う。）
	3	留学生（単位互換制度の制定、長期の留学生受け入れ、輩出ができるようにする。）
	4	協定校、協定施設（知名度のある大学、医療施設と協定締結）
	5	森ノ宮医療学園ランゲージスクールとの交流
卒後教 育セン ター	1	文科省認定職業実践力育成プログラムの設定（各学科最小1、全体で8を目指す；4年度）
	2	各種セミナーの実施件数(年間12件)
	3	学術大会の実施と参加者数：100名以上
	4	学内認知度向上
健康管 理セン ター	1	定期健康診断受診率：5年連続100%
	2	実習前健康診断の期限内完成と期限内ワクチン接種遂行：5年連続100%
	3	メンタルヘルスに由来する休学・退学率：5年連続1%未満
	4	実習施設との効率的感染予防対策に関する連携構築：5年で達成
研究支 援セン ター	5	日本語学校学生感染症罹患者の100%抽出
	1	事務処理上のミス：5年連続0件
	2	外部資金新規獲得件数：5年で50件
	3	査読付論文数：5年で30件
	4	法律・ガイドライン等の100%遵守、研究費不正：5年連続0件、研究活動不正：5年連続0件
附属図 書館	5	本学ブランドを打ち出した最新の研究成果等の定期的アップデート
	6	学長事業推進費を使用した研究支援事業の実施
	1	蔵書や雑誌などの情報資源の確保（収納可能蔵書数8万冊）
	2	利用者数の増加（毎年前年度比120%程度アップ）
大学経 営企画 室	3	図書館利用の分析
	4	図書館運営の充実
	1	国の施策への対応
	2	地域連携の充実
	3	IR情報の収集および提供
	4	特別補助獲得へ向けての取り組み
	5	新学科設置等の検討

総務室	1	学生推奨度向上：大学において、2018年度推奨度と比較し、向上させる
	2	教職員推奨度向上：大学において、2018年度推奨度と比較し、向上させる
	3	業務効率向上：各マニュアル、スケジュールの策定、業務改善の実施
	4	資源の選択と集中：2018年度と比較し、総務室予算を1.3倍以内に抑える
	5	法令遵守：危機管理体制、その他案件対応体制の構築
教務室	1	4年卒業率95%
	2	国家試験合格率100%
	3	IPWに関連する科目数、単位数、時間数などがライバル校と比較し充実している
	4	300床以上の病院、大学より60分圏内の実習病院比率増
	5	ICTを活用したポートフォリオの整備
学生支 援室	1	4年卒業率95%
	2	第一希望就職率90%
	3	学生ボランティア活動の充実および近隣地域とのボランティア体制の整備
	4	学生会、教育後援会、校友会の充実
	5	ICTを活用したポートフォリオの整備
広報室	1	進研模試偏差値・・・看護・理学：62、作業・検査：60、工学・放射線：55、鍼灸：50
	2	医療系大学(医科大学除く)で西日本一位の志願者数
	3	リクルートブランド力調査（関西）で5項目以上にランクイン
	4	広報予算の10%削減
会計室	1	学校会計基準の理解度を上げる。室員ごとの処理の均一化をする。
	2	予算実績管理
	3	業務整理（キャッシュレスに近づくため）
	4	年度末未納者各学科・各学年30万円/1名以下の基準（6学科×30万＝180万円以下）
	5	中期財務計画を作成できる体制を作る。

【専門学校・法人本部】

鍼灸学 科	1	国家試験合格率100%
	2	入学者3年後卒業率95%以上
	3	鍼灸治療に必要な技術の修得
	4	在校生推奨度80%以上
	5	入学定員充足率100%
柔道整 復学科	1	国家試験合格率100%（既卒者40%）
	2	入学者3年後卒業率95%以上
	3	入学定員充足率100%
	4	教育力の再構築（学生生活アンケート「教職員について」やや満足以上80%以上）
	5	臨床力の再構築（教員の臨床活動率100%、学生生活アンケート「モチベーションの変化」が90以上の学生が80%以上）
学生募 集グ	1	定員充足率100%
教務部	2	「臨床の森ノ宮」に共感した入学者が90%以上
	1	学術部会の開催年6回
	2	学生・教員が参加できる臨床現場の確保
	3	施術所訪問年30回
	4	左記活動で得た情報の学内開示を適宜行う
学術 部・図 書館	5	現学科定員減及び新学科設置した場合のシミュレーション作成
	1	個人学術研究費の適切な配分
	2	学会発表・論文投稿数30編/年
	3	学術部会の開催（年6回）
学部課	4	新規図書購入（30冊以上）
	5	図書室利用率10%増（学生貸出し）
	1	在校時就職先決定率75%
	2	学生台帳の完全データ化
	3	関係法令に定めのない事項の記録化
広報課	4	卒業時学生満足度90%
	1	受験者数定員の120%
	2	競合校の中で知名度トップ
	3	競合校の中で信頼度トップ
経理課	1	予算の適正処理
	2	適正な経理処理
	3	出版部の受発注ルールの確立
	4	資金確保（財源基盤の確立）
	5	経理業務の効率を上げる
総務課	1	総務課購入備品に関して1割のコスト削減の実行
	2	業務管理の見直しを行い、総務課担当業務をすべてマニュアル化
	3	規程の管理ルールの見直し、周知徹底を行うとともに、規程改定等を実施し、適正な規程管理を実行
管理課	1	業務管理の見直しを行い、管理課担当業務で可能なものをすべてマニュアル化
	2	学生にとって、より良い学習環境の整備 学内で1日過ごせる環境づくり
	3	校舎・設備等の維持管理
企画グ ループ ・京 都治療 院	1	月間稼働レセプト枚数に対して患者紹介率10%
	2	月間稼働レセプト枚数に対して法人紹介率10%
	3	紹介以外の新規獲得を稼働レセプト対10%
学園総 務グ ループ （総	4	2020年度内に月間収益「約237万円」
	5	60代以上の割合を25%
学園総 務グ ループ （総	1	「合理的で効率的な経営が行われている」に対する肯定割合80%以上
	2	「成長」や「やりがい」「誇り」等に対する推奨度80%以上
学園総 務グ ループ （総	3	投資回収期（概ね2023年頃）までの長期的人事・財務戦略の策定
	1	一般職員の長時間労働は正：前年度比5%減、管理職の長時間労働は正：月100時間未満・ハラスメントに関する職員不満足度5%以下
	2	有給休暇5日取得100%
学園総 務グ ループ （総	3	学園総務スタッフの月平均時間外2018年度維持
学園総 務グ ループ （財 務）	1	遅延解消及び障害検知
	2	システム障害によるデータ損失及び障害によるダウンタイムのゼロ
	3	HP改ざんゼロあるいは改ざん復旧1日以内
	4	誤送信も含めた不適切な情報流出がないこと
校友室	1	会計処理の統一化（基盤）
	2	予算の管理体制の整備
	3	出版部は受発注ルールの提案
	4	業務内容の見直し
	5	年間キャッシュフロー黒字体制の確立
	1	提携校・姉妹校をつくる。
日本語 学校設 置準備 室	2	海外オフィスの設立。
	3	研修可能施設をつくる。
	4	校友会の活動をサポートする。（年間行事を遂行する。会報誌など発刊物・計3つ作成する）。
	5	校友会会員情報を管理する。
	6	ステイクホルダーとの友好な関係の維持と開拓
	7	国内外の研修会を実施する。
日本語 学校設 置準備 室	1	不法残留率3%以下
	2	JLPT N2を40%、N3を90%取得を目指す
	3	希望進路達成率100%
	4	留学生間および近隣とのトラブルゼロの実現
	5	入学者定員の充足率100%
	6	新在留資格案への対応
	7	教務と事務における各種業務引継書の作成
	8	大学との人的交流と施設利用の推進
	9	単年度利益2020年度黒字化、累計利益2026年度黒字化実現
	10	介護福祉士学科の設立と日本語学校との一貫教育スキームの確立
	11	国の在留資格に関する施策への対応
	12	留学生の感染症集団発生ゼロ件